

平成30年度

川越市河川生物調査

抜粋版

実施日 平成30年8月21日・22日

1. 調査目的

本調査は、河川生物を調べることにより、生物化学的酸素要求量(BOD)などの理化学的な調査だけでは把握しにくい、長期的な水辺環境の変化を総合的に把握することを目的とする。

2. 調査内容

2.1 調査地点

調査は、表 2-1 及び図 2-1 に示す 5 地点でおこなった。

表 2-1 調査地点一覧

地点番号	河川名	調査地点	場所
St. 1	不老川	むさしの橋付近	今福地内
St. 2		砂久保橋付近	今福地内
St. 3	新河岸川	八幡橋付近	上野田町地内
St. 4		豊橋付近	大仙波地内
St. 5		旭付近	下新河岸地内

2.2 調査項目

調査対象項目は底生生物、付着藻類及び魚類とし、St. 2(不老川砂久保橋付近)、St. 4(新河岸川豊橋付近)及びSt. 5(新河岸川旭橋付近)では全ての項目を調査した。St. 1(不老川むさしの橋付近) 及び St. 3(新河岸川八幡橋付近)では、底生生物の定性採集調査及び魚類の 2 項目を調査した。それぞれの地点における調査項目を表 2-2 に示す。

表 2-2 調査項目一覧

調査地点 項目		不老川		新河岸川		
		むさしの橋 付近	砂久保橋 付近	八幡橋付近	豊橋付近	旭橋付近
		St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5
底生生物	定量採集		○		○	○
	定性採集	○	○	○	○	○
付着藻類			○		○	○
魚 類		○	○	○	○	○

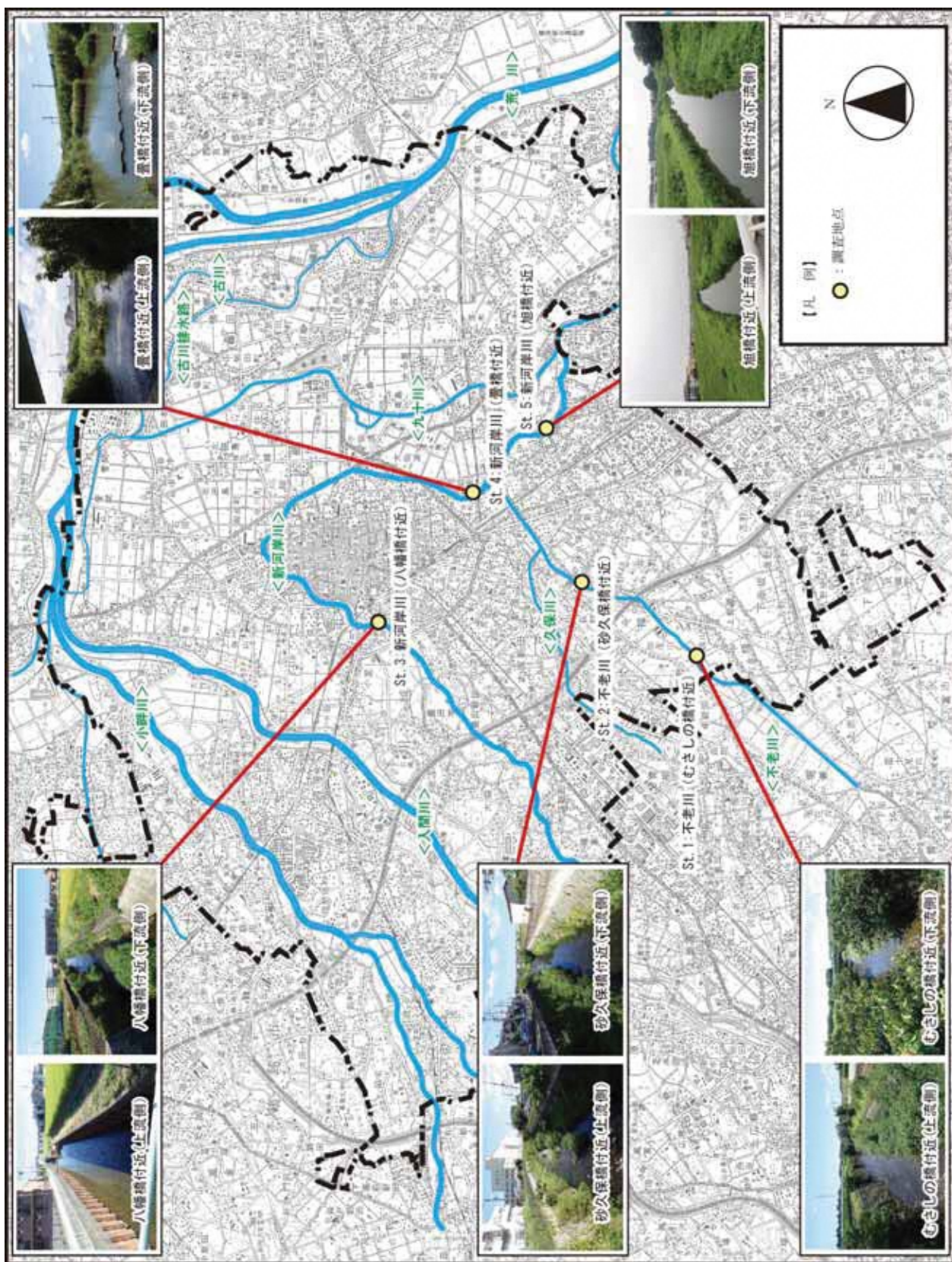


図 2-1 調査地点位置図

2.3 調査期日

調査は、表 2-3 に示す日程でおこなった。

表 2-3 調査期日

調査期日	調査地点
平成30年8月21日(火)	St. 3、St. 4、St. 5
平成30年8月22日(水)	St. 1、St. 2

2.4 調査方法

① 底生生物

定量採集調査はサーバーネット、定性採集調査はタモ網等を用いて実施した。

a. 定量採集調査

定量採集調査は、サーバーネット（金属方形枠(25cm×25cm)に孔径 0.493mm のサラシ網を付けた器具）を用いて、河床に生息する生物を河床の砂礫ごと攪拌しながら採集し、バットにあけ砂礫等を取り除き保存用のポリ瓶に移した。採集した検体試料は、ホルマリンで固定保存し試験室に持ち帰り分析に供した。なお、採集は 25cm×25cm 方形枠を 4 回(0.25m²)とした。

持ち帰った試料は、ふるいを用いて砂泥の微粒子を洗い流した後、実体顕微鏡(6.3～40 倍)及び生物顕微鏡(100～400 倍)により、各生物種の同定、種別個体数の計数をおこなった。

b. 定性採集調査

定量試料採集地点の上下流 50m 程度の範囲について、瀬・深み・淵を問わずにタモ網等を使用して、中大型種や注目に値する種の採捕を目的として任意に採集した。同時に採捕された魚類は魚類調査結果に統合した。

② 付着藻類調査

付着藻類は、瀬又は瀬に類似する場所の河床から、握り拳～人頭大の礫を採集し、採集部分にゴム製のコードラート(5cm×5cm)(図 2-2 参照)をあて、周囲に付着している余分な藻類をブラシでこすり落とした後、採集部分をブラシでバットの中にこすり落とし、保存用のポリ瓶に移した。この操作を 3 回繰り返したもの{(5cm×5cm)×3回=75cm²}を試料とした。採集した試料は、ホルマリンで固定保存し、試験室に持ち帰り分析をおこなった。持ち帰った試料は、一定量を大型のスライドグラス上に採取し、種の同定と細胞数の計数をおこなった。種の同定には、生物顕微鏡を用いた。

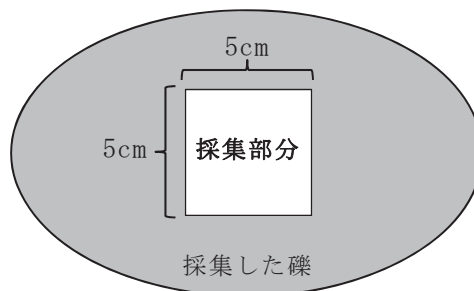


図 2-2 付着藻類採集の模式図

③ 魚類調査

魚類調査は目視のほか、投網、タモ網、網カゴなどを用いて魚類を採捕し、現地で種の同定及び採捕数、体長の記録をした後に放流した。

2.5 底生生物及び付着藻類による水質判定

各地点で採集された生物種の集計結果を元に、生物学的な水質判定をおこなった(判定方法の詳細は、資料編参照)。本調査では、従来から使用されている優占種法、Beck-Tsuda法、Kolkwits法及び汚濁指数法による水質判定結果から総合判定をおこなうと共に、「川の生きものを調べよう」並びに平均スコア法による水質判定もおこなった。底生生物及び付着藻類の定量採集調査を実施した地点については全ての水質判定をおこない、底生生物の定性採集調査のみを実施した地点については平均スコア法による水質判定をおこなった。

生物学的な水質判定に用いられる水質階級を表 2-4 生物学的な水質階級に示す。なお、本文中は水質階級を記号で表す。

表 2-4 生物学的な水質階級

水質階級	汚濁の度合い
貧腐水性 (Os)	清冽
β 中腐水性 (βm)	やや汚い
α 中腐水性 (αm)	かなり汚い
強腐水性 (Ps)	極めて汚い

2.6 注目種の選定基準

現地調査により確認された底生生物、付着藻類及び魚類から、絶滅が危惧される種及び特定外来生物を注目種として抽出した。抽出は表 2-5～表 2-7 に示す選定基準によりおこなった。

表 2-5 底生生物の注目種選定基準

略称	選定基準
環境省 RL	「環境省レッドリスト 2018」(環境省、平成 30 年)における掲載種(昆虫類、貝類、その他無脊椎動物)
埼玉県 RL	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(埼玉県、平成 30 年)における掲載種(地帯区分：荒川以西)
特定外来	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月、法律第 78 号)による特定外来生物

表 2-6 付着藻類の注目種選定基準

略称	選定基準
環境省 RL	「環境省レッドリスト 2018」(環境省、平成 30 年)における掲載種(藻類)
埼玉県 RL	「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(埼玉県、平成 24 年)における掲載種
特定外来	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月、法律第 78 号)による特定外来生物

表 2-7 魚類の注目種選定基準

略称	選定基準
環境省 RL	「環境省レッドリスト 2018」(環境省、平成 30 年)における掲載種(汽水・淡水魚類)
埼玉県 RL	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(埼玉県、平成 30 年)における掲載種
特定外来	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月、法律第 78 号)による特定外来生物

3. 調査結果・考察

3.1 調査地点の概要

各調査地点及びその周辺の概要を以下に示す。

St.1 不老川(むさしの橋付近)

水面幅は1.5～3m程度、水深は0.1～0.4m程度で、水量は少なく、緩やかな流れである。直線的な掘り込み河道であり、平瀬が多い。一部に早瀬や小さな落差による淵がみられる。護岸はコンクリートであり、水際は部分的に堆積した土砂に草本類が生育している。河床材料は、主に礫である。周辺には畑地が広がっている。



上流側



下流側

むさしの橋付近

St.2 不老川(砂久保橋付近)

水面幅は4～6m程度、水深は0.1～0.6m程度で、水量は少なく、緩やかな流れである。直線的な掘り込み河道となっており、護岸は両岸ともコンクリートであるが、水際には草本類が生育している。平瀬が多く、一部に小規模な早瀬や淵がみられる。河床材料は主に礫である。周辺は住宅地となっている。



上流側



下流側

砂久保橋付近

St.3 新河岸川(八幡橋付近)

水面幅は2.5~4.0m程度、水深は0.1~0.2m程度で、水量は少なく、流れも緩やかである。調査範囲内には平瀬が多いが、一部に早瀬もみられる。八幡橋の30m程上流で赤間川との合流があり、新河岸川はその上流で三面張りの水路となっている。護岸は、八幡橋より上流側が鋼製矢板とコンクリートであり、下流側は蛇籠となっている。下流側の水際には、堆積した土砂に草本類などが小規模に生育している。河床材料は礫と砂泥質である。周囲は小規模な水田や住宅地が広がっている。



上流側



下流側

八幡橋付近

St.4 新河岸川(豊橋付近)

水面幅は6~12m程度、水深は0.15~1.3m程度で水量は多い。不老川合流点の上流側にあたる。落差工があり、その下流と豊橋の上流に比較的大きな淵がみられる。淵の上下流は平瀬が多い。護岸は橋の上流側は鋼製矢板とコンクリートで、下流側はコンクリートである。水際は上流側がコンクリート及び蛇籠、下流側が土質であり、ヨシ・オギ等が生育し、浮葉植物が繁茂している場所も見られる。河床材料は砂~岩である。堤内は主に市街地で、左岸側下流が水田になっている。



上流側



下流側

豊橋付近

St.5 新河岸川(旭橋付近)

不老川合流点の下流側にあたり、水面幅は8~10m程度、水深は0.3~1.2m程度で、水量は多く、全体的に流れは緩やかであるが、橋の上下流100m程の所に瀬があり、やや速い流れとなっている。調査範囲には用排水や湧水の流入箇所があるが規模は小さい。護岸は、旭橋下流側右岸に新河岸川河岸場跡があり、船着場がコンクリートとなっている。また、橋脚付近がフトン籠による護岸となっている他は、大部分が土羽護岸である。水際は土質であり、ヨシやオギ・クズ等が生育している。流心に近いところでは部分的に沈水植物が繁茂している。河床材料は泥質~砂礫質である。堤外地に高水敷がありヨシやオギ・クズ・低木等が生育している。堤内地は兩岸とも宅地になっている。



上流側



下流側

旭橋付近

3.2 出現種一覧

3.2.1 底生生物

各調査地点での底生生物調査結果の概要を表 3-1 に、出現種一覧を表 3-2 に、代表的な確認種の分布状況を図 3-1 に示す。今回の調査では 7 綱 16 目 28 科 48 種の底生生物が確認された。確認種は国内の河川に広く生息する種であり、汚濁に耐性を持つ種類が多かった。注目種としてはホンサナエが St.3 で確認された。

表 3-1 底生生物調査結果の概要

項目	地点名	St.1 不老川 むさしの橋 付近		St.2 不老川 砂久保橋 付近		St.3 新河岸川 八幡橋 付近		St.4 新河岸川 豊橋 付近		St.5 新河岸川 旭橋 付近	
		定性	定量	定性	定性	定量	定性	定量	定性		
種数		14	23	8	21	19	11	15	11		
			27			28		26			
個体数 (個体/0.25m ²)		-	1560	-	-	718	-	76	-		
注目種		-	-		ホンサナエ	-		-			

表 3-2 底生生物調査結果一覧

調査期日：平成30年8月21日, 8月22日

No.	綱名	目名	科名	種名		耐 忍 性	汚 濁 指 数	水 質 階 級	St.1 むさしの橋 付近		St.2 砂久保橋付近		St.3 八幡橋 付近		St.4 豊橋付近		St.5 旭橋付近		
				和名	学名				定性	定量	定性	定量	定性	定量	定性	定量			
1	渦虫綱	三岐腸目	サンカクアタマウズムシ科	アメリカツノウズムシ	<i>Girardia dorocephala</i>	-	-	-			24			1			22		
2	腹足綱	新生腹足目	カワエナ科	チリメンカワエナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>	B	2	βm					○						
3	汎有肺目	汎有肺目	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ	<i>Fossaria ollula</i>	B	3	αm	○	1				○					
4			サカマキガイ科	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>	B	4	Ps	○	3	○	○	1	○			○		
5			ヒラマキガイ科	ヒロマキミズマイマイ	<i>Metus dilatatus</i>	-	-	-			63		○						
6	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	シジミ属の一種	<i>Corbicula</i> sp.	B	2	βm				○	1				○		
7			マメシジミ科	マメシジミ属の一種	<i>Pisidium</i> sp.	B	3	αm									2		
8	ミズミズ綱	イトミズ目	ミズミズ科	ユリミズ属の一種	<i>Limnodrilus</i> sp.	B	4	Ps			3			1			12		
9				ミズミズ属の一種	<i>Nais</i> sp.	B	3	αm			6			1				○	
10				テングミズミズ属の一種	<i>Stylaria</i> sp.	B	2	βm						○					
11				ツリミズ目	ツリミズ科	ツリミズ科の一種	<i>Lumbricidae</i> gen. sp.	-	-	-						1			
12	ヒル綱	幼蛭目	ヒラタビル科	ヒラタビル科の一種	<i>Glossiphoniidae</i> gen. sp.	B	3	αm						5			○		
13		無物蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	B	3	αm		26	○			232	○		2		
14				イシビル科の一種	<i>Eprobodellidae</i> gen. sp.	-	-	-	○	27	○	○					1		
15	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonx frozidanus</i>	-	-	-									1		
16	エビ目	ワラジ目	ミズムシ科	ミズムシ	<i>Asellus hilgendorfi</i>	B	3	αm			75		○	312					
17		ヌマエビ科	カリヌマエビ属の一種	<i>Neocaridina</i> sp.	-	-	-	○	19	○	○			○			○		
18		テナガエビ科	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	B	2	βm									○	○		
19		アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	B	4	Ps	○					○		○		○		
20	昆虫綱	カゲロウ目	コカゲロウ科	サホコカゲロウ	<i>Baetis sahoensis</i>	B	3	αm			10			3			2		
21				フコカゲロウ	<i>Baetis</i> sp. F	A	1	Os			13								
22				フタバカゲロウ属の一種	<i>Cloeon</i> sp.	B	2	βm											○
23				ウスイロフトヒゴコカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>	-	-	-							○				1
24				ウデマガリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifera</i>	A	1	Os	○		24			○	1				
25				シロタカゲロウ科	シロタカゲロウ	<i>Ecdyonurus voshidae</i>	B	2	βm			5							
26		トンボ目	イトトンボ科	アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>	B	3	αm	○										
27				クロイトトンボ属の一種	<i>Paracercion</i>	B	3	αm									○		
28			ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	B	3	αm						○					
29			サナエトンボ科	オナガサナエ	<i>Meligomphus viridicostus</i>	B	2	βm	○			○							
30				ホソサナエ	<i>Shaogomphus postocularis</i>	B	2	βm					○						
31			トンボ科	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	B	3	αm	○		○	○						○	
32	カメシ目	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	B	3	αm	○		○	○			○			○		
33			ヒメアメンボ	<i>Gerris latiabdominis</i>	B	3	αm	○					○		○				
34		カタビロアメンボ科	ケシカタビロアメンボ	<i>Microvelia douglasi</i>	-	-	-	○		○	○			○					
35	トビケラ目	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>	B	2	βm			4				26			2		
36			ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属の一種	<i>Hydroptila</i> sp.	B	2	βm			1			1					
37	ハエ目	ユスリカ科	ユスリカ属の一種	<i>Chironomus</i> sp.	B	4	Ps									○		○	
38			カマガタユスリカ属の一種	<i>Cryptochironomus</i> sp.	B	3	αm												8
39			ホソユスリカ属の一種	<i>Microtendipes</i> sp.	-	-	-			48		○		4				1	
40			サクロユスリカ属の一種	<i>Einfeldia</i> sp.	B	3	αm											4	
41			ハモンユスリカ属の一種	<i>Polypedilum</i> sp.	B	3	αm	○		24		○		36				10	
42			ナガレユスリカ属の一種	<i>Rheotanytarsus</i> sp.	B	3	αm	○											
43			ムナクボエリユスリカ属の一種	<i>Synorthocladus</i> sp.	-	-	-			136									
44			ヒゲユスリカ属の一種	<i>Tanytarsus</i> sp.	A	1	Os			544				16				5	
45			ニセテンマクエリユスリカ属の一種	<i>Ivetenia</i> sp.	-	-	-			64									
46			エリユスリカ亜科の一種	<i>Orthocladinae</i> gen. spp.	-	-	-			352			○	68				3	
47			ユスリカ科の一種(蛹)	<i>Chironomidae</i> gen. spp. (pupae)	-	-	-			88				4				4	
48		ミズアブ科	<i>Stratiomyus</i> 属の一種	<i>Stratiomyus</i> sp.	B	2	βm					○							
	7綱	16目	28科	48種	個体数	-	-	-	1,560	-	-	-	718	-	-	76	-		
種類数					14	23	8	21	19	11	15	11							
質量 (g)					-	5.93	-	-	1.57	-	0.22	-							

注) 1. 種名および表中の網掛けは、「埼玉県レッドデータブック2018 (動物編)」に記載されている種であることを示す。
 2. 種名および種順は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。
 3. 水質階級は「森下郁子 (1985) 指標生物学 生物モニタリングの考え方」に従った。
 4. 定量採集面積は、0.25m×0.25m×4回 (0.25m²) とした。
 5. 定性 (定性採集) は、さて網・たも網で地点周辺を調査した結果を示し、定量 (定量採集) は、サーバーネットにより一定面積内を調査した結果を示す。

3.2.2 付着藻類

各調査地点での付着藻類調査結果の概要を表 3-3 に、出現種一覧を表 3-4 に、代表的な確認種の分布状況を図 3-2 に示す。

今回の調査では 4 綱 10 目 19 科 67 種の付着藻類が確認された。確認種は汚濁に耐性を持つ種が多かった。注目種としてオオイシソウが St.4 及び St.5 で確認された。

表 3-3 付着藻類調査結果の概要

項目 \ 地点名	St.2 不老川 砂久保橋 付近	St.4 新河岸川 豊橋 付近	St.5 入間川 旭橋 付近
種数	35	49	34
延べ細胞数(細胞数/cm ²)	21,336,000	102,153,600	105,984,000
注目種	—	オオイシソウ	オオイシソウ

表 3-4 附着藻類調査結果一覧

調査期日：平成30年8月21日, 8月22日

No.	綱名	目名	科名	種名		耐 忍 性	汚 濁 指 数	水 質 階 級	調査地点名		
				和 名	学 名				St. 2 不老川 砂久保橋付近	St. 4 新河岸川 量橋付近	St. 5 新河岸川 旭橋付近
1	藍藻綱	クロコックス目	エントフィサリス科	エントフィサリス	<i>Entophysalis</i> sp.	B	—	—	720,000		3,024,000
2		ネジゴモ目	ヒゲモ科	ヒゲモ	<i>Homoeothrix janthina</i> *	A	1	0s~βm	840,000		
3			ユモ科	ユモ	<i>Oscillatoria</i> sp. *	B	—	—		288,000	
4				フナモ	<i>Phormidium</i> spp. *	B	—	—	48,000	1,008,000	720,000
5	紅藻綱	柱状目	柱状科	柱状	<i>Compsopogon coeruleus</i>	B	—	—		720,000	1,296,000
6		アウロエチム目	アウロエチム科	アウロエチム	<i>Audouinella</i> sp.	A	1	0s~βm		2,880,000	73,872,000
7	珪藻綱	中心目	メロシラ科	メロシラ	<i>Melosira varians</i>	A	1	0s~βm	24,000	3,024,000	576,000
8		羽状目	フナギ科	フナギ	<i>Fragilaria rumpens</i>	B	2	βm	120,000		
9				フナギ	<i>Fragilaria vaucheriae</i>	A	1	0s	312,000		288,000
10				フナギ	<i>Stausirella pinnata</i>	A	1	0s~βm		720,000	
11				フナギ	<i>Synedra rumpens</i> var. <i>familiaris</i>	B	2	βm	192,000		
12				フナギ	<i>Ulnaria lanceolata</i>	B	—	—			144,000
13				フナギ	<i>Ulnaria pseudogailonii</i>	B	—	—	96,000	288,000	
14				フナギ	<i>Ulnaria ulna</i> var. <i>oxyrhynchus</i>	B	2	βm	24,000		
15				フナギ	<i>Ulnaria ulna</i> var. <i>ulna</i>	B	2	βm	504,000	1,584,000	144,000
16			ユノチ科	ユノチ	<i>Eunotia minor</i>	A	1	0s		144,000	144,000
17			フナギ科	フナギ	<i>Amphora pediculus</i>	B	2	βm			288,000
18				フナギ	<i>Cymbella aspera</i>	A	1	0s~βm		144,000	
19				フナギ	<i>Cymbella tumida</i>	A	1	0s~βm		288,000	288,000
20				フナギ	<i>Encyonema minutum</i>	A	1	0s	24,000	1,152,000	288,000
21				フナギ	<i>Encyonema silesiacum</i>	A	1	0s~βm		288,000	
22				フナギ	<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>crassinervia</i>	A	1	0s		576,000	144,000
23				フナギ	<i>Frustulia vulgaris</i>	A	1	0s			288,000
24				フナギ	<i>Gomphonema augur</i>	B	2	βm		576,000	2,736,000
25				フナギ	<i>Gomphonema gracile</i>	A	1	0s		288,000	
26				フナギ	<i>Gomphonema lagenula</i>	B	—	—	120,000	2,304,000	288,000
27				フナギ	<i>Gomphonema parvulum</i>	B	4	βm~Ps	840,000	2,016,000	864,000
28				フナギ	<i>Gomphonema pseudoaugur</i>	B	4	βm~Ps	24,000	2,736,000	288,000
29				フナギ	<i>Navicula cari</i>	B	3	βm~αm			3,888,000
30				フナギ	<i>Navicula confervacea</i>	B	2	βm	2,856,000	32,400,000	720,000
31				フナギ	<i>Navicula cryptocephala</i>	B	3	βm~αm	24,000		720,000
32				フナギ	<i>Navicula cryptotenella</i>	B	2	βm		3,888,000	3,744,000
33				フナギ	<i>Navicula goeppertiana</i>	B	3	βm~αm		12,816,000	9,648,000
34				フナギ	<i>Navicula gregaria</i>	B	3	βm~αm		288,000	144,000
35				フナギ	<i>Navicula nipponica</i>	B	2	βm		28,800	576,000
36				フナギ	<i>Navicula rostellata</i>	A	1	0s~βm		288,000	144,000
37				フナギ	<i>Navicula saprophila</i>	B	3	βm~αm	48,000		
38				フナギ	<i>Navicula seminulum</i>	B	4	αm~Ps	96,000	720,000	576,000
39				フナギ	<i>Navicula subminuscula</i>	B	4	αm~Ps	5,592,000	288,000	
40				フナギ	<i>Navicula symmetrica</i>	B	2	βm	24,000	28,800	288,000
41				フナギ	<i>Navicula veneta</i>	B	3	βm~αm	144,000	3,168,000	720,000
42				フナギ	<i>Navicula ventralis</i>	B	2	βm		1,584,000	
43				フナギ	<i>Navicula yuraensis</i>	A	1	0s~βm		288,000	
44				フナギ	<i>Navicula</i> spp.	B	—	—			576,000
45				フナギ	<i>Pinnularia brauniana</i>	B	4	βm~Ps		4,752,000	432,000
46				フナギ	<i>Pinnularia gibba</i>	B	3	βm~αm		576,000	
47				フナギ	<i>Pinnularia</i> sp.	B	—	—		144,000	144,000
48			アキナゲス科	アキナゲス	<i>Achnanthydium exiguum</i>	B	2	βm	312,000	720,000	
49				アキナゲス	<i>Achnanthydium minutissimum</i>	B	2	βm	24,000	576,000	
50				アキナゲス	<i>Cocconeis placentula</i> var.	A	1	0s~βm		288,000	
51				アキナゲス	<i>Planorhynchium lanceolatum</i>	A	1	0s~βm	48,000	288,000	
52			ニツギ科	ニツギ	<i>Bacillaria paxillifer</i>	B	2	βm		144,000	
53				ニツギ	<i>Nitzschia amphibia</i>	B	4	βm~Ps	2,616,000	4,032,000	1,008,000
54				ニツギ	<i>Nitzschia filiformis</i>	B	2	0s~βm		144,000	
55				ニツギ	<i>Nitzschia inconspicua</i>	B	2	βm	3,336,000		
56				ニツギ	<i>Nitzschia palea</i>	B	4	βm~Ps	48,000	2,160,000	
57				ニツギ	<i>Nitzschia paleacea</i>	B	2	βm		1,152,000	
58			スリレ科	スリレ	<i>Surirella angusta</i>	B	2	βm		288,000	
59	緑藻綱	クロコックス目	クロコックス科	クロコックス	<i>Chlorolobion</i> sp.	B	—	—	72,000		
60			セネデスマス科	セネデスマス	<i>Scenedesmus</i> spp.	B	—	—	192,000	576,000	1,152,000
61			アミドリ科	アミドリ	<i>Pediastrum</i> sp.	B	—	—	120,000		
62		カエトフネ目	カエトフネ科	カエトフネ	<i>Cloniophora</i> sp.	B	—	—	144,000		
63				カエトフネ	<i>Stigeoclonium</i> sp.	B	—	—	696,000	3,456,000	
64				カエトフネ (基部細胞)	Chaetophoraceae gen. sp. (basal cell)	B	—	—	960,000	1,440,000	
65		オキナゲ目	オキナゲ科	オキナゲ	<i>Oedogonium</i> sp.	B	—	—	48,000		
66		オキナゲ目	オキナゲ科	オキナゲ	<i>Spirogyra</i> sp.	B	—	—	48,000		144,000
67			カヅミ科	カヅミ	<i>Cosmarium</i> sp.	B	—	—			288,000
	4綱	10目	19科		67種			種類数	35	49	34
								総細胞数 (cells/全試料)	21,336,000	102,153,600	105,984,000
								沈澱量 (ml/全試料)	1.2	8.0	8.2

注) 1. 種名および表中の網掛けは「埼玉県レッドデータブック2011 植物編」に記載されている種であることを示す。
2. (*)印を付した種については、糸状体数を示す。

3.2.3 魚類

各調査地点での魚類調査結果の概要を表 3-5 に、出現種一覧を表 3-6 に、代表的な確認種の分布状況を図 3-3 に示す。

今回の調査では5目7科18種の魚類が確認された。調査地点のうち上流域にあたる St. 1～St. 3 は淡水魚が多く、下流域に位置する St. 4～St. 5 においては淡水魚に加え回遊性の魚類も確認され、海域からの影響が伺えた。注目種としてはドジョウが St. 1～3 及び St. 5、ミナミメダカが St. 3～5 で確認された。

表 3-5 魚類調査結果の概要

項目 \ 地点名	St. 1 不老川 むさしの橋 付近	St. 2 不老川 砂久保 付近	St. 3 新河岸川 八幡橋 付近	St. 4 新河岸川 豊橋 付近	St. 5 新河岸川 旭橋 付近
種数	3	8	5	12	13
採捕個体数	15	55	27	75	64
注目種	ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ ミナミメダカ	ミナミメダカ	ドジョウ ミナミメダカ

表 3-6 魚類調査結果一覧

調査期日：平成30年8月21日、8月22日

番号	目名	科	和名	生活型	St.1 不老川 むさしの橋付近	St.2 不老川 砂久保橋付近	St.3 新河岸川 八幡橋付近	St.4 新河岸川 豊橋付近	St.5 新河岸川 旭橋付近	
1	コイ目	コイ科	コイ	淡		1		1	2	
2			ギンブナ	淡		7	1	4	4	
3			タイリクバラタナゴ	淡					3	15
4			オイカワ	淡		13	27	9	25	
5			アブラハヤ	淡			1			
6			ウグイ	回					12	
7			モツゴ	淡		1	9		9	8
8			タモロコ	淡			2		1	2
9			カマツカ	淡						4
10				ドジョウ科	ドジョウ	淡	1	6	6	1
11	ナマズ目	ナマズ科	ナマズ	淡		2		1		
12	サケ目	アユ科	アユ	回				2		
13	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	淡			10	13	15	
14	スズキ目	ボラ科	ボラ	回				2	2	
15		ハゼ科	ウキゴリ	回					5	
16			旧トウヨシノボリ類	回			1	2	2	
17			ヌマチチブ	回					2	
18		タイワンドジョウ科	カムルチー	淡					2	
合計	5目	7科	18種	種類数	3	8	5	12	13	
				個体数	15	55	27	75	64	

注) 1. 生活型 回：両側回遊魚（海域と淡水域を往来する種） 淡：純淡水魚（一生を淡水域で過ごす種） 海：海産性魚（偶発的に淡水域に進出する）
 2. 表中の網掛けは、「環境省レッドデータブック2018」及び「埼玉県レッドデータブック2018 動物編」に記載されている種であることを示す。
 3. 種名・学名及び序列は、河川水辺の国勢調査の出現種リストに従った。また、生活型は「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」の表記に従った。